

NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ「文型雑感」..... 1	● 授業デザインスキルアップ演習報告..... 3
● 2012 年度「教員免許状更新講習」報告 2	● 授業の玉手箱「韓国の英語教育」に思う..... 4
講習 1：教材の開発—その基盤となる考え方と工夫 2	● 書籍紹介『ヒトはいかにしてことばを獲得したか』..... 4
講習 2：音声で拓く英語の指導のために..... 3	● 編集後記・10月・11月勉強会案内..... 4

巻頭エッセイ

文型雑感

寺 秀幸

文型指導のジレンマ

教室で五文型を教えるときにある種のトートロジーを感じるのは著者だけだろうか。与えられた文の文型が分かると、その文の構造が明確になり意味が取りやすくなるという。著者自身もそう言って教えてきた。しかし、本当にそうなのだろうか。実際はその逆で、ある文がどの文型に属しているかを識別するためには、その文の構造をかなりの程度に理解できる語学力が必要なのではないだろうか。

たとえば、ここに She went home. という文がある。この文の文型が SVM であることを認識するためには、went が目的語をとらない自動詞であることと home が副詞であることを事前を知っておく必要があり、さらに、この解釈により適切な文意が形成されるかどうかを確認する必要がある。初めに文型を認識してから文意を理解するのではないのだ。

多くの学習者にとって文の構成要素を識別することが極めて厄介な作業であることを私たちは授業で痛感している。たとえば目的語を見分けるためには、名詞だけではなく動名詞、不定詞、節などの名詞に相当する表現形式を正確に知っておく必要がある。また、修飾要素を識別するためには、形容詞、副詞だけでなく現在分詞、過去分詞、関係詞節、前置詞句などを知る必要がある。

おそらく、文の構造を理解したり、その理解をもとにしてその文意をつかんだりする認知的な学習活動の補助手段として文型の知識を使うことには限界がある。もちろん、長文などの理解において、文の構成要素を把握することは大切だが、それができるようになるためにはこれらの構成要素を形成する様々な表現形式に精通する必要がある。文の分類、文の理解などに文型の知識を応用することは、ある程度学習の進んだ者のみに可能な技術なのである。

生成技術としての文型

著者は、五文型の指導は上記のような receptive な学習分野よりも、speaking や writing のような expressive/productive なスキルの形成に有用であると考え。なぜならば、文型の指導を通して、学習者に動詞のパターンの重要性を認識させ、母語の構造に影響されない骨太の英文を生成できるように指導することが可能になるからである。

文型とは突き詰めるところ動詞の類型論である。英語にはさまざまなパターンをとる動詞がある。ある種の動詞は名詞や形容詞を後ろに要求し、ある種の動詞は to 不定詞や現在分詞を要求する。また、ある種の動詞は特定の修飾語を要求する。学習者は結局のところさまざまな動詞が要求する要素とその特徴を学ばない限り正確に英語を生成することはできない。五文型は、その複雑な動詞の使用法を 5 つのパターンに分類し、学習者に一定のガイドラインを提供してくれると考えられる。

もちろん、動詞のパターンは 5 種類には収まらない。パターンの分

類方法に関しては 7 パターン説、25 パターン説など意見は分かれているがそれは重要なことではない。大切なのは、動詞が一定のパターンに沿って使われるということと、そのパターンを学ぶことによって正しく英文を作る糸口がつかめるということを学習者に認識させることである。そして、辞書の例文などを見て絶えず動詞の用法を確認することの重要性を認識させることである。そのような態度を身につけさせることにこそ文型指導の意義があるのではないだろうか。

認識論としての文型

著者は文型指導にはもうひとつ重要な役割があると考えている。それは、語順の持つ意味を認識させる道具としての役割である。

日本語と大きく異なる英語の特徴のひとつは、文中の語順が語の「格」を示す役割を担うということである。周知のように日本語では文中の語の役割は助詞によって示される。その結果、「私は英語を学ぶ」も「英語を私は学ぶ」も基本的な意味は変わらない。一方、英語では単語が動詞を中心としてどの位置にあるかによってその文中での役割が決まる。そのため、日本語のような語順の自由はない。SVC、SVO、SVOO と言った文型はまさにその意味役割を示す青写真なのだ。

このことを認識している学習者はどの程度いるのだろうか。少し前になるが、テレビのバラエティ番組で、外国人に英語で話しかけられた高校生の反応を紹介していた。「ええっとお、me わあ、watch しましたあ、TV を……」たいていの人はこの高校生よりもう少し英語らしく体裁を整えることができるであろう。しかし、それでも、頭の中では無意識のうちに「は」や「を」を補ってしまうのではないだろうか。言うまでもないが、英語を母語とする人たちは「ワタシ・ミタ・テレビ」と語を並べているだけなのだ。語順そのもののなかに「格」を感じながら英語を使える人はどの程度いるのであろう。知らぬ間に「てにをは」の見えない手に拘束されてはいないだろうか。

さらに類推するなら、おそらく英語を母語とする人たちは文型そのものにある種の「意味」を感じているのではないだろうか。SVOO の形をとる文が「授与」などの共通の意味を持つことは我々も知るところだが、同じように、SVC、SVOC などの他のパターンにもそれぞれ共通の意味があるのではないだろうか。また、これとは観点が違うが、He came out slowly. He came out smiling. He came out a hero. などの下線部は異なる文要素ではあるが、文末に位置することによりなんらかの共通の感覚を表してはいないだろうか。

たしかに日本に住む私たちが外国語である英語をそのように認識して使う必要はないのかもしれない。しかし、このような言語と思考表出パターンの関係こそ、外国語を学ぶことによって獲得できる貴重な「教養」ではないのだろうか。文型はこのことを教えるのに有効な材料のように思える。

特集

講習 1：教材の開発 - その基盤となる考え方と工夫

講習 2：体験型ワークショップ・クリニック：音声で拓く英語の指導のために

講習 1 8月6日(月)

担当：東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

英語の授業ではさまざまな教材が使われる。「教材開発に役立つジャンルの考え方」では、英語教材のジャンルに注目して、それぞれのジャンルに固有な言語的特徴をどのように見つけて教材化するかを、事例を挙げながら考える。目的や場面に適した言語使用を実践するためには、語彙や文法を取り上げるだけでなく、ジャンルに特徴的な情報の伝え方（表現意図の構造）に注目することが大切であろう。ミクロ、マクロの観点から教材を捉え、「使える英語」「通じる英語」につながる教材開発の一助としたい。

「教材開発の方法」では、学ぶための「学習材」と教えるための「教育材」の観点から、最初に教材研究として教材の位置づけや教材の読み込みを含む「教材を見る視点」を考える。次に、学習者である生徒に応じた教材の使用の実際から、教材の改作を含め学習目的に合った教材作成を考える「教材を使う視点」を検討する。さらに、そうした視点を基に、ワークシートや補助教材作成のデザインなど「教材開発の工夫」をペア、グループで実際に text-based material(教科書)・task-based material(ロールプレイ等)・realia(実物教材)などを使って考える。最後に、講習を振り返りつつろいでいただくため、投げ込み教材としてマザーグースの世界を紹介し、楽しんでもらう。

受講者のコメント（受講者 47 名から一部紹介）

- ・“明日の授業”からすぐに活用できる例をいっぱい準備していただき助かりました。特に資料にまとめていただいたワークシート集は、コピーして使用させていただきます。少し講義の量が多すぎて（高度すぎて）私のような者にはついていくのが精一杯でしたが、「なるほど！」と心にスッと入った事項も多くありましたので、持ち帰って活用させていただきます。本日は本当にありがとうございました。
- ・内容がとにかく盛りだくさんで、スローラーナーな私にはちよっと授業についていくのが精一杯でした。メインテーマは“教材”に絞られていましたので、すぐにも授業で役立つヒントや題材が提示され、この講習を受講できてよかったと思います。ちよっとしたお楽しみもあり、あっという間に一日が過ぎ、本当に有意義だと感じています。グループワーキングもあり、他校の先生方も親しくなれたり、とても良かったと思います。免許状更新講習での受講でしたが、また機会があれば是非他の講座にも参加したく存じます。どうもありがとうございました。
- ・一日があっという間でした。明日からすぐに役立つというより、これから教えていく際の指針となるような考え方を教えていただき、とても刺激になりました。マザーグースも楽しかったです。ありがとうございました。
- ・まず、東條先生と中井先生の温かい雰囲気と素晴らしく準備された講習に感動しました。授業をするものとして、まず実践しなければいけないことを改めて感じながらお話を聞きました。6時間、あっという間に時間が過ぎるほど具体的に日々の自分の教材研究を振り返ることができました。新しい考え方で、教科書や生徒と向き合って授業を作っていくことができそうです。とても元気になり、自信が持てそうです。東條先生の「2次元の教材を3次元で見る眼が必要」というお話も、とても心に残りました。特に読解問題は生徒と同様にべたべたと読んでしまいがちだったので、今後の指導に役立ちます。中井先生の盛りだくさんなお話もとても興味深いものばかりで家で資料を読み返すのが楽しみです。たくさんのお土産ありがとうございました。

- ・プリント作成の功罪（プロセス・カット）について、深く考えさせられました。「効率よく教えて言語活動の時間を作るため」の予習プリント作成でしたが、生徒達を「与えられたことしか答えなくてよい」体勢にしてしまっていたのかもしれないと気づきました。中井先生の「えっと思わせて、生徒を引き込む」手法、富士登山やだまし絵のインパクトで引き込まれました。長時間の講習でしたが、「もっともっと深く聞きたい」と思う内に終了しました。どうもありがとうございました。
- ・本当に有意義な時間を持つことができました。久々に学校に戻って学習させていただいて本当に嬉しく思います。毎日、教材を作成したり、授業案を考えていたりする中であやふやになっていたこと、悩んでいたことがありました。しかし、今日、先生方の講習の中で、「こういう風にしなくては」や「こんな風に考えたら生徒もするかも」等思うことがたくさんありました。残りの夏休みに、秋からのことを考え直していきたいと思います。そして、次回も是非受講したいと思います。
- ・大阪女学院での研修なので、すぐに役立つアイデアをたくさん教えていただけるとは思っていたが、想像以上に有意義で楽しい講義であった。「教材開発に役立つジャンル」では実際の活動があり、普段の生徒の立場に立つこともできてとてもわくわくした。「教材開発の方法」では、様々なアイデアをいただけたが、何か一つ実際に教材を作るとかプチ授業をするなどであれば最高だったと思う。いずれにせよ、貴重な体験でした。ありがとうございました。
- ・今回の第一回目の講習は、今までの自分の考え方や見方を180度転換させていただいた内容でした。常に斬新な視点で探究されている東條先生、中井先生には頭が下がります。知的な好奇心を刺激していただき、早速2学期からの授業に取り入れていこうと思いました。授業は本当に奥が深く、これで終わりということがありません。この免許状更新講習は今までの自分のやり方をおおいに反省させられるとても良い機会だったと思います。これをきっかけに定期的に講習を受けていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。
- ・「楽しかった！」というのが、まず最初の感想です。東條先生、中井先生のお人柄も大変素晴らしく、教師として楽しい授業をする上で、参考になる点が多くありました。教師自身がその授業を楽しめることが、子ども達の授業満足度につながると思います。先生方からは講義を通してたくさんのお話を学ばせていただき、ありがとうございました。今後も機会があれば研修等に参加してみたいと思います。
- ・まず、一番印象的だったのは、講師の先生方がとても楽しんでらっしゃるようなエネルギーを感じました。いろいろ紹介していただいたように、実際の学校での授業でも先生の個性を出した教材で、試験範囲や大学受験を気にせず、英語を使うことを単純に楽しむことを目標とした授業ができるならどんなにいいだろうかと思えます。英語はそれほど難しい文法や構文やイディオムを覚えなくても簡単な単語と文で話せるし、十分コミュニケーションもできるのになあとやはり日本の英語教育の現状には少し疑問を覚えています。
- ・何となく授業に役立てられたらいいなという考えで受講しましたが、とてもいい刺激になりました。普段意識していなかったことがいろいろわかって、改めて自分の英語力を上げようというモチベーションにつながりました。やらなければいけないことがいっぱい見つかった感じです。楽しかったです。ありがとうございました。

講習 2 8月7日(火)

担当：夫 明美、東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

英語の音声に焦点を当てた体験型ワークショップ・クリニックを行う。午前の部は、「発音の向上と発音指導の方法」として、英語における音素の生成過程や音のつながりの仕組みを理解し、教室で使用されているテキストを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習及び発音指導のヒントについて考える。



午後の第一部は、英語の音声音が音素・音韻レベルから語、句、文レベルへ、さらにまとまった内容のある素材の中でどのように表れているかに注目しながら、音声理解向上の糸口を見つけ、リスニングのハードルとなっている要因を段階的に追っていく「英語リスニングのクリニック」を試みる。

午後の第二部は、「教科書テキスト」「詩」「映画セリフ」「絵本」「ニュース」「早口ことば」など様々な素材を使った音読パフォーマンスや「名言 (speech 含む)」の暗唱パフォーマンス等の音声表現ワークショップを行い、授業での音読の活用を探る。

受講者のコメント (LL 教室使用により受講者 33 名から一部紹介)

- ・ 午前の部では、系統立てて発音の違いを知ることができ良かったです。今まで曖昧に感じていたことがすっきりしました。午後の部、第一部でも具体的な問題点が分かり、その点を意識しながら今後の授業に活かせると思います。第二部でも、「絵本」「早口言葉」「名言」を中心にたくさんの教材として使えるものをまとめていただき授業で活用できると思います。本日はありがとうございました。
- ・ 午前中の発音の授業は、あやふやだった発声の仕組みの知識を体系的に教えていただけて良かったです。一つ一つの発音練習は、言われた直後は分かっているけど、あとでいづつか混ざると単に混乱してしまいます。時間をかけて繰り返し練習をし、定着させなければいけないものだと痛感しました。生徒はさらに困難で時間がかかると思います。午後の東條先生の講義は、発音することと聞き取ることが表裏一体になっていることに気づかせてくれたと思います。中井先生の講義は楽しかったです。この楽しさを教室でも伝えるのはどうしたらいいのかをこれから考えていかなければと思います。
- ・ 2 日目の受講でした。夫先生の発音記号の説明とその練習は非常に分かりやすく楽しかったです。子音の m, n, ŋ の違いはとてもすっきりしました。また、æ の口の形もすっきりしました。LL 教室の設備も素晴らしく活動しやすかったです。東條先生の honesty から始まる授業。心穏やかになりました。また、リスニングのハードルを分かりやすく解説してくださり、今後生徒を指導していくにあたってのスムーズステップをどう踏めばいいのかを考えることができました。中井先生からはたくさんのお土産をいただきました。授業のはじめに帯び学習で発音練習することを必ずやってみたいと思います。”Rain”, “Water”, “Paul” の活動はとても楽しかったです。是非中学生とやってみたいと思います。本当にこの講習を選んで良かったです。ありがとうございました。
- ・ 音声指導や音読パフォーマンスについてすぐに実践に活かせるヒントをいろいろ頂きました。ありがとうございます。確かに中井先生の講義は盛りだくさんでしたが、いろいろな素材も頂けて、「よし、やってみよう」という意欲が湧きました。
- ・ 午前の部は、音声学をしっかり学んでいなかったのが非常に役に立った。今後の授業での発音指導に自信を持って望めるようになると思う。午後の中井先生の講義では、本当に様々な素材を紹介していただき、いろいろな授業で活用できると思います。すぐ参考になりました。ありがとうございます。
- ・ 本日の講習は本当に有意義でした。今まで、正式に音声学の授業を受けたことがないので、いろいろな疑問が解決しました。時間があれば本当に大学で講義を受けたいと思っています。現実にはなかなか難しく、退職後になることでしょうが… 研修を受け、教育を受け、新しい情報を得ることは本当に大切なことだと感じました。いろいろヒントを頂いたので、これからゆっくりといろいろな分野を勉強して生徒に還元できたらと思います。
- ・ 2 日間盛りだくさんで、楽しく刺激を頂きました。学校に持ち帰りすぐに現場で使えるものばかりでした。結局、教える教師が常にアンテナを張り、教材を見つけ工夫し、生徒に興味付けをしていかなければならないのだと思いました。「先生が楽しくなければ、生徒も楽しくない」そのとおりだと思います。
- ・ 午前中の講習で、個々の音の違いや語と語の結びつきに起こる音の変化をきちんと説明していただき、大変ためになりました。



た。系統立てて教えていただけてよかったです。普通の授業にも少しずつ還元したいです。午後の講習も午前の部と関連づけられ、さらに実践的なもので今日の講習は音声指導についてまとまりがあり、充実していたと思います。

- ・ 今日もう意義な講習を準備していただけてありがとうございました。貴学の学生は熱心な教授陣の授業を受けることができ幸せだと思います。もし、もう一度大学に戻れるなら貴学で学びたい。3 年生の生徒が進路相談に来たときに、英語を学びたい生徒には貴学を薦めますが躊躇があるケースも少なくないです。生徒が理由としてあげるの、共学で学びたいということが多いですが、授業内容の本質が理解できていないようにも思います。貴学の英語教育に対する真摯さを多くの受験生が理解してくれるよう願います。(本当の英語力を付けたいなら)
- ・ 理論だけでなく、体験を通して学習できたことは、今後自分がどのように教えていくべきかの道標になりました。教科書を教える問題を解くだけでは英語の楽しさはつたわりません。音声で拓く英語指導は使える英語を身に付ける最適な方法だと思います。ありがとうございました。



大阪女学院大学授業デザインスキルアップ演習・現職教員支援講習
(本学正規授業・無料講習) 2012 年 8 月 13 日(月) 10:00 - 16:20

午前：“コミュニケーションのための教室英文法”
午後：“思考力を高める英語授業とは”
本学 4 年生：2 名
現職教員 (更新講習受講者・OJU 教職ネット会員)：19 名
担当：中井弘一

参加教員コメント (一部紹介)

- ・ 先週に続き参加させていただいたことを嬉しく思います。今回の前半の講習の中で、「何で？」を明確に生徒たちにしてきていないところがあるなと思いました。今の 1 年生の子どもたちに夏休み明けの授業で語順のことを伝えたいと思います。特に英語と日本語の語順の違いを伝えるために、“Tom ate the hamburger.” の文を、イラストを使い黒板で手動アニメーションでやってみたいと思います。今からワクワクしています。そして、前置詞のイメージ、時制などもっと自分が理解しなくてはいけないと思いました。授業改革をしていくイメージがなかなかまとまっていませんが、考えていきます。教員免許状更新講習を是非また開講してください。本日もありがとうございました。
- ・ 大阪女学院大学のすばらしい講座を去年初めて参加させていただき、その豊富さと先生方の熱意に驚きました。「こういうことが知りたかった！」と強く思いました。永年の教職に精神的な疲れが出てきた近年だったのですが、今日また、新たな気持ちで勉強したいと思いました。特に前半の“コミュニケーションのための教室英文法”は、「目からウロコ」といって、ずっと知りたかったことで、一般の参考書には、ちよこちよこ細切れには載っているのですが、体系的に勉強したことのない分野でした。よい参考文献がありましたら、またご教示ください。後半の“思考力を高める英語授業とは”については、自分の授業教材への読み込みが足りないと思われました。本日は心より感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 思考力を高めるための授業展開のヒントを多くいただきました。preparation と incubation に取り組もうと思います。ありがとうございました。



授業の玉手箱

書籍紹介

「韓国の英語教育」に思う

東條 加寿子

このところ韓国の英語教育について調査している。先週は、ソウルの小、中、高や教育委員会を訪問する機会に恵まれた。韓国では小学校3年生から教科として英語が必修化されて10年以上が経つが、今回、小学校から高校までの英語の教科書を何冊か入手することができた。教職課程の学生とともに、日本の教科書との比較研究してみようと考えている。韓国といえば、PISAやTOEFL、TOEICで日本はいささか水をあげられている感がある。拙速な結論は避けなければならないが、これらの成果の背景にはどのような教育があるのだろうか。

ここでは、韓国の修学能力試験（英語）と日本の大学入試センター試験（英語）の相違点を見てみたいと思う。修学能力試験は毎年11月に実施され、大学進学を希望する高校生は必ず受験しなければならないが、毎年58万人近くが受験する。ちなみに、昨年のセンター試験受験者は約55万人。韓国と日本の人口比を勘案すると、韓国の大学進学率がいかに高いかがわかる。実際80%に迫る数字である。修学能力試験の結果が進学先を決定するのであるから、受験生にとってはまさに一世一代の一番である。昨年の問題をみても、英語は70分の試験時間で全50問、そのうちの17問がリスニング問題で、以下のようないくつかの興味深い特徴がある。

- 1) 昨年の修学能力試験（英語）の総使用単語数は5,500語前後で、昨年のセンター試験（英語）の総使用単語数の4,000語程度を上回っている。試験時間は、韓国70分、日本80分であるから、韓国の方が英文の分量がかなり多いことになる。
- 2) 筆記試験で会話文の出題はない。会話はすべてリスニング問題として問われており、扱われる会話も長く、10～12回のturn-takingがある会話が出題されている。会話シーンは、ショッピング、旅行計画、学生生活、図書館利用、病院、レンタル等のシーンである。
- 3) 発音問題、作文問題はない。
- 4) 筆記試験では、100～200語の英文パラグラフについて、内容理解、空欄補充、並べ替え等が出題されている。驚くのは、1パラグラフ（1テーマ）1問の構成で、これが30問程あるわけだから、解答するためかなりの読解力、読解スピードが求められるということ。一方、センター入試では400語程度のパラグラフや、650語程度のスピーチの SCRIPT など、比較的長い英文について複数問を問う出題が見られる。修学能力試験の内容は、地球温暖化、メタボリズム、心理、技術革新、歴史、科学、スポーツ、芸術文学など、多様な学問分野を網羅するようなラインアップで、homeostasis や euphemism に関する内容も見受けられた。語彙の難易度も高い。
- 5) イラストや図表の利用については、イラストが用いられているリスニング問題が2問、表利用問題が1問、円グラフを読み取る問題が1問のみで、特にセンター試験のリスニングでイラストが多用されていることと対照的である。

これらの中で最も興味深いのは、2)と4)の相違点である。確かに、会話文を筆記試験として出題する意味はあるのか、考えさせられる。また、修学能力試験では文法やイデオロムといった言語知識を文レベルで適用して答えられる問題は1問もなく、英語を媒体とした思考力 (academic/cognitive competence) を問う出題になっていることには圧倒される。今後、このような統一試験を課す韓国の教育課程をさらに詳しく調べてみたいと思う。なお、修学能力試験の過去問題は以下のウェブ上で公開されている。

<http://suneung.re.kr/board.do?page=1&boardConfigNo=62&menuNo=238&sortName=boardEtc01> (例えば、2012年外国語は62番「 외국어」と書いてある箇所)

『ヒトはいかにしてことばを獲得したか』

正高信夫・辻幸夫 共著。2012。大修館書店。798円 246ページ

霊長類研究者の正高信夫氏と言語学者の辻幸夫氏の対談集である本書は、ヒトの本質的な特徴である「ことば」の獲得・使用について、他の霊長類からの進化、赤ちゃんの発達過程などを引き合いに出しながら、議論が進んでいきます。さまざまな先行研究や最新の知見なども織り込まれていますが、専門的な用語については両者が適宜説明を加えるなどして、ことばに興味がある人にとっては読みやすい展開になっています。



紹介者が特に興味をひかれたのは生後6週間ごろから赤ちゃんが「クーイング」とよばれる特徴的な音声でコミュニケーションを取ろうとしているという指摘です。6ヶ月ごろの赤ちゃんが「喃語」とよばれる言語（と分類してよからうと思います）を使うことは広く知られているかと思いますが、それよりも早い段階で「随意性をもった発声をするようになる」(p.59)ことは新しい学習でした。言うまでもなく、赤ちゃんの主たるコミュニケーションの相手はケアテイカーである母親である場合が多いのですが、その母親は多くの皆さんがご存じの「マザリース」と特徴づけられる言語スタイルで赤ちゃんに接します。このようなコミュニケーションが基盤となり、親和的な表現である模倣から共感 (empathy) が育まれていく、という人間のユニークな特性があらためて理解できる1冊であると思います。また、本書の裏表紙にはカニクイザルのある一連の行動の写真が印刷されていますが、その行動内容も非常に興味深いので、ご自身の目で確かめられてください。

(夫 明美)



編集後記 / 第18・19回勉強会案内

9月中旬、学生6人を連れて英国へ教職フィールドワークに2週間ほど赴いた。到着時はパラリンピックが閉会し、今夏の一連のオリンピックを総括するパレードが行われた日であった。翌日の新聞は Souvenir Edition (記念版) が発行され熱狂的な一日であった。Tube の優先席には for disabled という言葉が使われているが、新聞には superhuman という言葉が踊っていた。"In the end, everyone of us was inspired by a month of extraordinary sport. Tom Peck considers how the Paralympics, in particular, gave the nation, a summer to remember in the form of new heroes, golden moments and perhaps, even a legacy. Superhuman efforts change attitude to Paralympic support for good."

*** 第18回勉強会「英語の教え方教室」***
2012 (平成24)年10月20日 (土) 14:00～17:00
「大阪女学院大学教職フィールドワーク課題研究発表」
今回の勉強会では、教職フィールドワーク英国に参加した学生が課題研究発表を行います。



*** 第19回勉強会「英語の教え方教室」***
2012 (平成24)年11月17日 (土) 14:00～17:00
「クイーンズランド大学での研修で学んだこと」
府立豊中高校の北村先生がクイーンズランド大学のゲストティーチャー・プログラムの研修内容を紹介します。



大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp